

## 若手農林水産研究者表彰農林水産技術会議会長賞受賞者の業績概要

受賞者	業績名	所属
いかざき けんた 伊ヶ崎 健大	砂漠化抑制と収量増加をともに実現する省力的技術の開発	(研)国際農林水産業研究センター
<p>砂漠化と慢性的な食糧不足に苦しむ西アフリカにおいて、砂漠化のメカニズムを明らかにするとともに、その知見に基づき、現地の人々が容易に実施でき、かつ砂漠化の抑制と作物収量の増加を同時に実現する省力的技術「耕地内休閒システム」を開発した。さらに、「耕地内休閒システム」の効率的な普及方法についても明らかにした。</p>		
おおいけ ひであき 大池 秀明	食品の有効な摂取に向けた体内時計調節に関する研究	(研)農業・食品産業技術総合研究機構 食品研究部門
<p>ポリフェノール、カフェイン、食塩などの食品成分で体内時計が調節できることを証明した。また、朝食による体内時計のリセットに栄養バランスが重要であることや、不規則な食生活で肥満が誘発されることを動物モデル等で示し、健康増進を実現するための新たな研究開発分野を開拓した。</p>		
おかだ かずま 岡田 和馬	ナシとリンゴの省力栽培形質に関するDNAマーカーの開発	(研)農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門
<p>果樹生産は担い手不足が深刻であり、省力栽培に適した新品種が切望されている。そこで、ナシでは人工受粉を省力化できる自家和合性個体を、リンゴではせん定等を省力化できるカラムナータイプ（円柱状）の樹形を示す個体を、幼苗段階で正確に選抜できるDNAマーカーを開発した。これにより、省力栽培向け品種開発が加速した。</p>		

受賞者	業績名	所属
しもさと たけし 下里 剛士	乳酸菌オリゴDNAを腸まで届ける経口用 ナノカプセルの開発	(国)信州大学
<p>             乳酸菌由来のオリゴDNA（DNA短鎖）は、優れた免疫調整作用を有するが、胃酸で分解されるため、注射器で投与されてきた。胃液に溶けず腸まで届く「DNAナノカプセル」を開発し、オリゴDNAの経口摂取が可能となり、今後、乳酸菌オリゴDNAを有効成分とする家畜飼料や機能性食品の開発が期待される。           </p>		
わたなべ じゅん 渡邊 潤	TMRセンターを核とした地域飼料流通利 用システムの開発	秋田県畜産試験場
<p>             「地域」を一つの生産経営体ととらえ、地域内で生産される自給飼料や発生する食品製造副産物を資源利用した混合飼料の製造・供給を行う「牛の給食センター（TMRセンター）」を運用していくためのシステム及び技術開発を行った。開発した技術は民間企業へ技術移転され、秋田県初のTMRセンターの設立など、実際の現場で活用されている。           </p>		